

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

平成 16 年度 総括研究報告書

主任研究者 小菅智男

平成 17 (2005) 年 4 月

目 次

I.総括研究報告書	
膵がんに対する補助化学療法に関する研究	1
II.研究成果の刊行に関する一覧表	20
III.研究成果の刊行物・別刷	28

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総括研究報告書

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

主任研究者 小菅智男 国立がんセンター中央病院 部長

研究要旨

予後不良な膵癌切除症例に対するゲムシタピンを用いた術後補助化学療法の有用性を検討するために、全国 10 施設による多施設共同無作為化比較試験を計画した。試験の概要は次の通りである。対象：浸潤性膵管癌の肉眼的治癒切除症例。比較条件：術後補助化学療法の有無。化学療法の方法：ゲムシタピン 1000mg/m²を週 1 回 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとして 3 コース行う。前層別因子：施設、進行度、根治度。主要評価項目：生存期間、無再発期間。副次的評価項目：化学療法に関連した有害事象。平成 16 年度末までに目標症例数を集積し、新規症例の登録を打ち切った。

分担研究者

松野正紀	東北大学大学院医学系研究科 教授
羽鳥隆	東京女子医科大学病院 准講師
山本順司	癌研究会附属病院 副部長
中尾昭公	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
土井隆一郎	京都大学大学院医学研究科 講師
門田守人	大阪大学大学院医学系研究科 教授
島田光生	徳島大学医学部 教授
田中雅夫	九州大学大学院医学研究院 教授
金光敬一郎	熊本大学医学部 講師
松山裕	京都大学大学院医学研究科 助教授
上野秀樹	国立がんセンター中央病院 医員

A. 研究目的

膵癌は早期診断の困難な疾患であり、今日でも切除率は低く、また切除された例でも遠隔成

績は不良である。膵癌による死亡数は年々増加しており、有効な治療法を確立することは国民的な課題である。これまで、切除可能症例に対しては、手術療法に化学療法や放射線療法などの補助療法を加えた集学的治療が試みられてきた。しかし、膵癌切除例を対象として行われた補助療法の無作為化比較試験は少なく、その結果は一定していない。アメリカでは 1985 年に GITSG による多施設共同無作為化比較試験の結果、外照射と 5-FU による放射線化学療法が膵癌治癒切除例に対する補助療法として有効とされ、以後これが膵癌切除例に対する標準治療とされてきた。しかし、最近、ヨーロッパで 2 つの大規模な国際共同研究が行われ、どちらも放射線化学療法の有効性を確認できなかった。一方、化学療法単独の補助療法に関する多施設共同無作為化比較試験は 1993 年に AMF 療法を用いてノルウェーで行われたものが報告されたのみであり、しかもその結果はあいまいなものであった。したがって、現時点では、膵癌の切除例に対して標準とするべき補助療法は確立していないといえる。

一方、切除不能な膵癌に対する化学療法では、近年、塩酸ゲムシタピン（以下ゲムシタピン）が注目を集めている。ゲムシタピンは代謝拮抗剤に分類される抗悪性腫瘍剤であり、細胞内で三リン酸化物に代謝され、DNA合成を阻害することによって固形がんに対する殺細胞効果を発揮する。米国およびカナダで実施された第Ⅲ相無作為化比較試験では、ゲムシタピンによる症状緩和効果が5-FUより有意に高率であることが示され、また、生存期間の延長に関してもゲムシタピンのほうが優れていると結論付けられた。米国ではこうした成績をもとにして1996年に進行膵癌に対する適応が承認され、本邦でも2001年4月から膵癌に対する適応が認められた。

以上のように、ゲムシタピンは効果ばかりでなく副作用の面でもこれまで標準的に用いられてきたフルオロウラシルよりも優れており、侵襲の大きな膵癌切除手術後に併用する補助化学療法剤として有望な薬剤と考えられる。そこで、本剤を用いた術後補助化学療法の有用性を評価するための臨床試験を計画した。

B. 研究方法

膵癌切除例に対するゲムシタピンを用いた術後補助化学療法の有用性を明らかにするため、肉眼的治癒切除が行われた浸潤性膵管癌の症例で安全性を維持するために設けられた基準を満たしたものを対象として、補助化学療法の有無による治療成績の比較を行う。過去に行われた研究の結果から、単施設での症例集積は困難と予想されるため、多施設共同研究とし、試験の方法は、最も信頼性が高いとされる無作為化比較試験とした。症例の登録は、術後3週から10週の間に登録条件が満たされていることを確認した上で行う。治療成績に影響を及ぼす可能性が高い、施設・腫瘍の進行度・手術の根治度の3要素について偏りが生じないように、これらを前層別因子として動的割付けによる無作為化を行う。主要評価項目は、登録時点か

らの生存期間および無再発期間とし、補助化学療法による有害事象を副次的評価項目とする。補助化学療法としては、ゲムシタピン1000mg/m²を1週間に一度ずつ3週連続で経静脈的に投与し、1週休止するのを1コースとし、合計で3コース行うこととする。倫理面の配慮として、研究対象者には研究の具体的内容、予想される利益と不利益、研究への参加や同意の撤回に関する自由、人権の擁護、費用の負担などについて詳細に説明した文書を渡した上で口頭による説明を行い、文書による同意を得ることとする。また、それぞれの研究実施施設において倫理審査委員会に研究実施要綱を提出し、その承認を得ることを必須とする。

C. 研究結果

本研究への参加が可能であった全国の主要な膵癌治療医療機関10施設、臨床統計家、症例登録センター、モニタリング委員会から構成される研究組織を整え、平成14年6月から症例の登録を開始した。平成17年3月31日まで119例が登録され目標症例数を上回ったため、新規症例の登録を打ち切った。今後は、登録された症例の経過を2年間追跡して治療成績の比較を行う予定である。

D. 考察

本研究では、2年生存率に約20%以上の差があった場合の検出力を80%に設定して予定症例数を100例とした。したがって、微小な差は検出できないという問題がある。しかし、過去に行われた様々な研究の結果から、これ以上の症例数を集積するのが困難であることは明らかであり、また、膵癌の一般的な予後を考慮した場合に、微小な効果では臨床的な意義が少ないことなどから現実的な値として設定した。ゲムシタピンの投与方法は標準的な治療投与方法に従った。投与回数設定については、十分な効果を得るために長期に投与する方法も議論

されたが、無効な場合、術後生存期間は短いことが予想されるため、補助療法の期間としては3カ月程度が妥当であるとの結論に至った。本研究の結果、最終的にゲムシタビンによる補助化学療法の有用性が証明されれば、難治がんの代表的存在である膵癌の切除症例に対して初めて標準的な治療を確立する契機になる。逆に有用性が証明されなければ、効果の少ない治療を行うことによる患者の不利益と医療経済上の不利益を避けることができる。症例の集積は順調に進み、平成16年度中に目標症例数に到達した。全体として研究は比較的順調に進展している。

E. 結論

研究実施要綱の策定から施設倫理委員会の承認を経て症例管理センターに症例を登録するという多施設共同研究の各段階は手順を踏んで実行することができた。症例の集積も予定通りに進み、本試験を完遂できる見通しがついた。客観的な評価を行うことが難しいと考えられてきた膵癌の補助化学療法に関しても、きちんとしたエビデンスを得ることができるということを示すことができた。

F. 健康危険情報

本年度は健康危険に関する情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

外国語論文

- 1) Takigawa Y, Kosuge T, et al. Antitumor effect induced by dendritic cell (DC)-based immunotherapy against peritoneal dissemination of the hamster pancreatic cancer. *Cancer Letters* 215:179-186, 2004.
- 2) Okusaka T, Kosuge T, et al. Systemic chemotherapy for pancreatic cancer. *Pancreas* 28:301-304, 2004.
- 3) Shimada K, Kosuge T, et al. Successful outcome after resection of pancreatic cancer with a solitary hepatic metastasis. *Hepato-Gastroenterology* 51:603-605, 2004.
- 4) Matsuno S, et al. Pancreatic cancer registry in Japan: 20 years of experience. *Pancreas* 28:219-230, 2004.
- 5) Egawa S, Matsuno S, et al. Clinicopathological aspects of small pancreatic cancer. *Pancreas*. 28:235-240, 2004.
- 6) Sunamura M, Matsuno S, et al. The role of chromosome 18 abnormalities in the progression of pancreatic adenocarcinoma. *Pancreas*. 28:311-316, 2004.
- 7) Lefter LP, Matsuno S, et al. Functional analysis of chromosome 18 in pancreatic cancer: strong evidence for new tumour suppressor genes. *Asian J Surg*. 27:85-92, 2004.
- 8) Sunamura M, Matsuno S, et al. Phase III trial of radiosensitizer PR-350 combined with intraoperative radiotherapy for the treatment of locally advanced pancreatic cancer. *Pancreas*28(3):330-334
- 9) Matsuno S, et al. Advancements in pancreatic cancer research in Japan and unfolding prospective. *Pancreas* 28:217-218, 2004.
- 10) Sunamura M, Matsuno S, et al. Oncolytic Virotherapy as a Novel Strategy for Pancreatic Cancer. *Pancreas*28(3):326-329
- 11) Yamanaka S, Matsuno S, et al. Chromosome 12, Frequently Deleted in Human Pancreatic Cancer, May Encode a

- Tumor Suppressor Gene that Suppresses Angiogenesis. *Lab Invest* 84:1339-1351, 2004.
- 12) Kokudo N, Yamamoto J, et al. Surgery for multiple hepatic colorectal metastases. *J Hepatobiliary Pancreat Surg.* 11:84-61, 2004.
 - 13) Sakamoto Y, Yamamoto J, et al. Extended left hepatectomy by severing all major hepatic veins with reconstruction of the right hepatic vein. *Surg Today.* 34:482-484, 2004.
 - 14) Saiura A, Yamamoto J, et al. [Primary duodenal carcinoma]. *Gan To Kagaku Ryoho.* 31:327-330, 2004.
 - 15) Sato T, Yamamoto J, et al. The repeated hepatectomy for frequent recurrence of hepatic metastasis from gastrointestinal stromal tumor of the stomach. *Hepatogastroenterology* 51:181-183, 2004.
 - 16) Sakamoto Y, Yamamoto J, et al. Reconstruction of hepatic or portal veins by use of newly customized great saphenous vein grafts. *Langenbecks Arch Surg.* 389:110-113, 2004.
 - 17) Nakao A, et al. Extended radical resection versus standard resection for pancreatic cancer: the rationale for extended resection. *Pancreas* 28:289-292, 2004.
 - 18) Matsuno S, Nakao A, et al. Pancreatic cancer registry in Japan: 20 years of experience. *Pancreas* 28:219-230, 2004.
 - 19) Tezel E, Nakao A, et al. Clinical significance of intraportal endovascular ultrasonography for the diagnosis of extrapancreatic nerve plexus invasion by pancreatic carcinoma. *Pancreatology* 4:76-81, 2004.
 - 20) Sakai M, Nakao A, et al. Frequent promoter methylation and gene silencing of CDH13 in pancreatic cancer. *Cancer Science* 95:588-591, 2004. *Cancer Science* 95:588-591, 2004.
 - 21) Masui T, Doi R. Metastin and its variant forms suppress migration of pancreatic cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 315:85-92, 2004.
 - 22) Hosotani, Doi R. Expression of pancreatic duodenal homobox-1 in pancreatic islet neogenesis after surgical wrapping in rats. *Surgery* 135:297-306, 2004.
 - 23) Imamura M, Doi R. Treatment of locally advanced pancreatic cancer. Should we resect it when resectable?. *Pancreas* 28:293-295, 2004.
 - 24) Doi R. Pancreatic endocrine tumor in Japan. *Pancreas* 28(3):247-252, 2004. *Pancreas* 28:247-252, 2004.
 - 25) Doi R. Effects of preceding gastrectomy on the outcome of pancreatoduodenectomy. *J. Gastrointest.* 8(5): 575-579, 2004. *Surg.* 8:575-579, 2004.
 - 26) Koizumi M, Doi R. Conditional transformation of mouse pancreatic epithelial cells: An in vitro model for analysis of genetic events in pancreatocarcinogenesis. *Biochem Biophys Res Commun* 319:612-621, 2004.
 - 27) Nakajima S, Doi R. N-cadherin expression and epithelial-mesenchymal transition in pancreatic carcinoma. *Clin Cancer Res.* 10(12): 4125-4133, 2004. *Clin Cancer Res.* 10:4125-4133, 2004.
 - 28) Onoue M, Doi R. Surgical resection deteriorates gemcitabine-induced

- leukopenia in pancreatic cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 9:174-178, 2004.
- 29) Kami K, Doi R. Survivin expression is a prognostic marker in pancreatic cancer patients. *Surgery* 136:347-352, 2004.
- 30) Koizumi M, Doi R. Hepatic regeneration and enforced PDX-1 expression accelerate transdifferentiation in liver. *Surgery* 136(2): 353-361, 2004. *Surgery* 136:353-361, 2004.
- 31) Ito D, Doi R. Chronic exposure of Transforming growth factor-beta 1 confers a more aggressive tumor phenotype through downregulation of p21WAF1/CIP1 in conditionally immortalized pancreatic epithelial cells. *Surgery* 136:265-275, 2004.
- 32) Toyoda E, Doi R. Analysis of E-, N-cadherin, a-, b- and g-catenin expression in human pancreatic cancer. *Pancreas* 30:168-173, 2005.
- 33) Hayashi N., Monden M, et al. Association between expression levels of CA 19-9 and N-Acetylglucosamine- β 1, 3-Galactosyltransferase 5 gene in human pancreatic cancer tissue. *Pathobiology* 71:26-34, 2004.
- 34) Yamamoto S., Monden M, et al. Expression of uridine diphosphate N-Acetyl- α -D-Galactosamine: Polypeptide N-Acetylgalactosaminyl transferase 3 in adenocarcinoma of the pancreas. *Pathobiology* 71:12-18, 2004.
- 35) Yamamoto S., Monden M, et al. Increased expression of valosin-containing protein (p97) is associated with lymph node metastasis and prognosis of pancreatic ductal adenocarcinoma. *Annals of Surgical Oncology* 11:165-172, 2004.
- 36) Yamamoto S., Monden M, et al. Prognostic significance of activated akt expression in pancreatic ductal adenocarcinoma. *Clinical Cancer Research* 10:2846-2850, 2004.
- 37) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Radiation to stromal fibroblasts increases invasiveness of pancreatic cancer cells through tumor-stromal interactions. *Cancer Res.* 64:3215-3222, 2004.
- 38) Intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas: diagnosis and treatment. *Pancreas* 28:282-288, 2004.
- 39) Ohuchida K, Tanaka M, et al. A highly sensitive and quantitative telomerase activity assay with pancreatic juice is useful for diagnosis of pancreatic carcinoma without problems due to polymerase chain reaction inhibitors. *Cancer* 101:2309-2317, 2004.
- 40) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. Familial pancreatic cancer: report of one Japanese family. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 11:434-437, 2004.
- 41) Manabe T, Tanaka M, et al. Novel strategic therapeutic approaches for prevention of local recurrence of pancreatic cancer after resection: trans-tissue, sustained local drug-delivery systems. *J Control Release* 100:317-330, 2004.
- 42) Takamori H, Kanemitsu K, et al. Pancreatic liver metastases after curative resection combined with intraoperative radiation for pancreatic cancer. *Hepato-Gastroenterol* 51:1500-1503, 2004.
- 43) Takamori H, Kanemitsu K, et al. Preoperative detection of liver metastases

- secondary to pancreatic cancer -utility of combined helical computed tomography during arterial portography with biphasic computed tomography-assisted hepatic arteriography-. *Pancreas* 29:188-192, 2004.
- 44) Takamori H, Kanemitsu K, et al. Metastatic gastric tumor secondary to pancreatic adenocarcinoma. *J Gastroenterol* 40:209-212, 2005.
- 45) Takamori H, Kanemitsu K, et al. 5-Fluorouracil intra-arterial infusion combined with systemic gemcitabine for unresectable pancreatic cancer. *Pancreas* 30:223-226, 2005.
- 46) Teramukai S, Matsuyama Y, et al. Individual patient-level and study-level meta-analysis for investigating modifiers of treatment effect. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 34:717-721, 2004.
- 47) Matsuyama Y, et al. Epidemiological characteristics of HIV and AIDS in Japan based on HIV/AIDS surveillance data: An international comparison. *The Journal of AIDS Research*. 6:184-193, 2004.
- 48) Okusaka, Ueno H, et al. Phase II study of radiotherapy combined with gemcitabine for locally advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer* 91:673-677, 2004.
- 49) Ueno H, et al. Phase I study of hyperfractionated radiation therapy with protracted 5-fluorouracil infusion in patients with locally advanced pancreatic cancer. *Oncology* 67:215-221, 2004.
- 50) Ueno H, et al. An early phase II study of S-1 in patients with metastatic pancreatic cancer.(in press). *Oncology* :, 2004.
- 51) Ueno H, et al. Phase II study of S-1 in patients with advanced biliary tract cancer. *Br J Cancer* 91:1769-1774, 2004.
- 52) Morizane, Ueno H, et al. Chemotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma in elderly patients.(in press). *Oncology* :, 2004.
- 日本語論文
- 1) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 新たに形成した大伏在静脈による肝静脈・門脈再建. *手術* 58:1725-1729, 2004.
- 2) 小菅智男, 他. 胆管切除の根拠—臨床成績からみた検討—. *胆と膵* 25:155-158, 2004.
- 3) 小菅智男, 他. 膵癌に対する集学的治療. *外科治療* 90:299-302, 2004.
- 4) 小菅智男. 肝臓・胆道・膵臓のがんについて *がん医療の現在 (いま)* 2000-11 医事出版社 東京, 27-40, 2004
- 5) 元井冬彦, 松野正紀, 他. 膵癌に対する標準手術—幽門輪温存膵頭十二指腸切除術. *外科治療* 90:608-615, 2004.
- 6) 乙供茂, 松野正紀, 他. 5-Fu chemoradiation と塩酸 gemcitabine で根治術が可能となった局所進行膵頭部癌の 1 例. *日消外会誌* 37:434-439, 2004.
- 7) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌登録症例からみた膵癌のリスクファクター. *肝胆膵* 48:547-554, 2004.
- 8) 松野正紀. 巻頭言 膵癌 早期発見へのチャレンジ. *肝胆膵* 48:543-544, 2004.
- 9) 江川新一, 松野正紀, 他. 全国膵癌登録からみた膵癌の臨床病理学的問題点. *病理と臨床* 22:791-797, 2004.
- 10) 江川新一, 松野正紀, 他. Expanded Abstract 小膵癌の臨床病理学的特徴. *膵臓* 19:444-445, 2004.
- 11) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵嚢胞性腫

- 瘍の診断と治療におけるコンセンサスの現状. 消化器外科 27:1835-1842, 2004.
- 12) 江川新一, 松野正紀, 他. 肝胆膵領域における腫瘍性病変の画像と病理: 通常型膵管癌 (頭部、体尾部). 肝胆膵 49:655-662, 2004.
- 13) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 癌治療における制限増殖型アデノウイルスの可能性. 遺伝子治療フロンティア: 外科遺伝子治療研究会編. メディカルレビュー社. 大阪, 21-27, 2004.
- 14) 元井冬彦, 松野正紀, 他. 膵癌. 消化器病診療. 良きインフォームドコンセントに向けて. 医学書院, 東京, 251-254, 2004.
- 15) 今泉俊秀, 羽鳥 隆, 他. UICC の TNM 分類 (第 6 版) - 特集 肝胆膵癌の Staging Score と臨床的評価. 肝胆膵 48:107-114, 2004.
- 16) 原田信比古, 羽鳥 隆, 他. 正常膵に対する膵腸吻合 - No-stent 法. 手術 58:1259-1262, 2004.
- 17) 羽鳥 隆, 他. 膵胆道癌の早期診断法 MRCP. Mebio 21:96-100, 2004.
- 18) 富岡寛行, 羽鳥 隆, 他. 限局性膵管狭窄所見で発見された膵上皮内癌の 1 切除例. 東京女子医科大学雑誌 74:350-353, 2004.
- 19) 樋口亮太, 羽鳥 隆, 他. 紡錘細胞型退形成性膵管癌の 1 切除例. 膵臓 19:516-521, 2004.
- 20) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵癌 診断 - 特集 最近の癌再発の診断法と治療. 外科 66:309-313, 2004.
- 21) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 膵腺扁平上皮癌 - 特集 肝胆膵領域における腫瘍性病変の画像と病理. 肝胆膵 49:744-747, 2004.
- 22) 齋浦明夫, 山本順司, 他. 消化器癌肝転移に対する外科治療. 臨床消化器内科 20:183-188, 2005.
- 23) 中尾昭公. 拡大手術. カレントセラピー 22:87, 2004.
- 24) 藤井 務, 中尾昭公, 他. 膵管内乳頭腫瘍・粘液性嚢胞腫瘍に対する外科治療の最近の動向. 外科治療 91:75-79, 2004.
- 25) 中尾昭公, 他. 抗がん剤適正使用のガイドライン 膵がん. International Journal of Clinical Oncology 9:15-19, 2004.
- 26) 中尾昭公, 他. 膵体尾部癌治療. 消化器外科 27:1825-1834, 2004.
- 27) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 膵頭十二指腸第 II 部切除術. 手術 58:1841-1845, 2004.
- 28) 中尾昭公. 浸潤性膵管癌の診療. 日本医師会雑誌. 133:367-371, 2005.
- 29) 金住直人, 中尾昭公. 膵損傷のリカバリー. 手術 59:337-340, 2005.
- 30) 井上総一郎, 中尾昭公. 膵癌の手術. 消化器病診療. 良きインフォームドコンセントに向けて. 医学書院, 東京 362-366, 2004.
- 31) 竹田伸, 中尾昭公. 膵癌, 膵島腫瘍. 最新版家庭医学大全科. 法研. 東京, 2115-2118, 2004.
- 32) 中森正二, 門田守人, 他. 切除不能・再発膵癌に対する Gemcitabine と UFT 併用療法の第 I 相試験. 癌と化学療法 31:51-54, 2004.
- 33) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 膵癌の術前肝転移診断-経上腸間膜動脈性門脈造影下 CT (CTAP)+肝動脈造影下 CT (CTHA) の有用性-. 膵臓 19:628-630, 2004.
- 34) 松山 裕. 経時観察研究における欠測データの解析. 計量生物学. 25:89-116, 2004.

- 35) 松山 裕, 他. 統計解析の実際. Surgery Frontier 11:412-419, 2004.
- 36) 松山 裕. コントロール (対照群) の考え方. Surgery Frontier 11:76-80, 2004.
- 37) 上野秀樹, 他. 膵癌に対する新しい化学療法. 特集 膵疾患をめぐる最近の話題-21世紀の膵疾患治療. 22(6):79-83, 2004. CURRENT THERAPY 22:79-83, 2004.
- 38) 竹迫賀子, 上野秀樹, 他. 膵癌・胆道癌. 臨床検査, 診断に用いる腫瘍マーカー. 癌と化学療法 31:1443-1446, 2004.
- 39) 上野秀樹, 他. 切除不能膵癌に対する化学療法、放射線療法. Medical Practice 22(2):305-310, 2005. 22:305-310, 2005.
- 40) 上野秀樹, 他. 胆嚢癌に対する化学療法・放射線療法. コンセンサス癌治療 3(2):92-95, 2004
- classification system should be used? JPS and UICC (AJCC) classification. Pancreatic Cancer 2004 (シンポジウム; 平成 16 年 4 月ピサ).
- 5) Sunamura M, Matsuno S, et al. PHASE III TRIAL OF RADIOSENSITIZER PR-350 COMBINED WITH INTRA-OPERATIVE RADIOTHERAPY FOR THE TREATMENT OF LOCALLY-ADVANCED PANCREATIC CANCER. 38th Annual Meeting of The Pancreas Club, 2004/5, ニューオーリンズ.
- 6) Sunamura M, Matsuno S, et al. Implication of Chromosome 18 Abnormalities in the Progress of Pancreatic cancer. AGA, 2004/5, ニューオーリンズ., 2004/5, ニューオーリンズ).
- 7) Sunamura M, Matsuno S, et al. Oncolytic Virotherapy as a Novel Strategy for Pancreatic Cancer. 第 36 回 European Pancreatic Club, 2004/6, パドバ.
- 8) Egawa S, Matsuno S, et al. Dendritic cell immunotherapy for metastatic pancreatic cancer. Integration with surgery, radiation and chemotherapy. IAP/JPS Joint Meeting (ポスター; 平成 16 年 7 月仙台).
- 9) Omura N, Matsuno S, et al. Oncolytic Viral Therapy for Pancreatic Cancer. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society(IAP/JPS), 2004/7, 仙台.
- 10) Sunamura M, Matsuno S, et al. Oncolytic Viral Therapy for Pancreatic Cancer. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association

2.学会発表

国際学会

- 1) Lefter LP, Matsuno S, et al. Expression of dominant-negative Ets-1 efficiently suppresses tumorigenesis in pancreatic cancer model. 95th Annual Meeting of American Association for Cancer Research, 2004/4, トロント.
- 2) Furukawa T, Matsuno S, et al. Tumor suppressive function of DUSP6/MKP-3 in pancreatic cancer. 95th Annual Meeting of American Association for Cancer Research, 2004/4, トロント.
- 3) Egawa S, Matsuno S, et al. Novel approaches in immunotherapy for pancreatic cancer. Pancreatic Cancer 2004 (シンポジウム). Pancreatic Cancer 2004, 2004/4, ピサ.
- 4) Egawa S, Matsuno S, et al. Which

- of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society(IAP/JPS), 2004/7, 仙台.
- 11) Omura N, Matsuno S, et al. Gene Therapy for Pancreatic Cancer by Fiber-Modified Oncolytic Replication-Selective Adenovirus. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society(IAP/JPS), 2004/7 仙台.
 - 12) Ishida M, Matsuno S, et al. Portal vein resection for pancreatic cance. (ポスター). Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society(IAP/JPS), 2004/7, 仙台.
 - 13) Oishi H, Matsuno S, et al. The Down-Staging of Locally Advanced Pancreatic Cancer. (ポスター). Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society(IAP/JPS), 2004/7, 仙台.
 - 14) Hatori T, et al. Successful interventional therapy with metallic coils for stopping a hemorrhage which caused rupture of a pseudoaneurysm at the stump of the splenic artery after distal pancreatectomy for pancreatic carcinoma — a case report. 6th World Congress of the International Hepato Pancreato Biliary Association, 2004/6, Washington DC.
 - 15) Fukuda A, Hatori T, et al. A new reconstruction method to prevent delayed gastric emptying after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. 6th World Congress of the International Hepato Pancreato Biliary Association. 2004/6, Washington DC.
 - 16) Hatori T, et al. The role of neural invasion in pancreatic carcinoma. 6th World Congress of the International Hepato Pancreato Biliary Association, 2004/6, Washington DC.
 - 17) Onizawa S, Hatori T, et al. Clinical analysis of relationship between intraductal papillary mucinous tumor (IMPT) and other malignant tumors. 6th World Congress of the International Hepato Pancreato Biliary Association. 2004/6, Washington DC, 2004.6.
 - 18) Fukuda A, Hatori T, et al. Evaluation of the prognosis of the long-term survivors after resection of pancreatic cancer. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society. 2004/7, Sendai.
 - 19) Hatori T, et al. Can the portal-mesenteric vein resection obtain a better prognosis of the carcinoma of the head of the pancreas?. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society. 2004/7, Sendai.
 - 20) Hayashi K, Hatori T, et al. DPD mRNA expression level and chemosensitivity for S-1 in pancreatic cancer. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society, 2004/7, Sendai.
 - 21) Yamashita S, Hatori T, et al. Liver metastasis of pancreatic duct carcinoma successfully treated with TS-1 — A case

- report. World Congress of the International college of Surgeons. , 2004/10, Quito(Ecuador).
- 22) Nakao A. Vascular resection. 6th World Congress of the International Hepato-Pancreto-Biliary Association., 2004/6, Washington, D.C., USA.
- 23) Takeda S, Nakao A ,et al. The Indication for Adjuvant Therapy in Advanced Pancreatic Cancer, 5-Fluorouracil Liver Perfusion Chemotherapy Via the Portal Vein Vs. Gemcitabine. 6th World Congress of the International Hepato-Pancreto-Biliary Association. 2004/6, Washington, D.C., USA.
- 24) Fujii T, Nakao A ,et al. Clinicopathological Features and Outcomes of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas. 6th World Congress of the International Hepato-Pancreto-Biliary Association. 2004/6, Washington, D.C., USA.
- 25) Kaneko T, Nakao A ,et al. Clinical significance of intraportal endovascular ultrasonography for the diagnosis of extrapancreatic nerve plexus invasion by pancreatic carcinoma. 第 11 回国際膵臓学会 第 35 回日本膵臓学会大会 合同会議. 2004/7, 仙台.
- 26) Kure S, Nakao A ,et al. Analysis of long-term survivors after surgical resection for invasive pancreatic cancer. 第 11 回国際膵臓学会 第 35 回日本膵臓学会大会合同会議, 2004/7, 仙台.
- 27) Takeda S, Nakao A ,et al. The indications for adjuvant chemotherapy in pancreatic cancer, 5-fluorouracil vs. gemcitabine, 第 11 回国際膵臓学会 第 35 回日本膵臓学会大会合同会議, 2004/7, 仙台.
- 28) Ishikawa T, Nakao A ,et al. Surgical strategy for intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas. 第 11 回国際膵臓学会 第 35 回日本膵臓学会大会合同会議, 2004/7, 仙台.
- 29) Sakai M, Nakao A ,et al. Para-aortic lymph node metastasis in carcinoma of the head of the pancreas. 第 11 回国際膵臓学会 第 35 回日本膵臓学会大会 合同会議, 2004/7, 仙台.
- 30) Nakao A , et al. Intraportal endovascular ultrasonography and isolated pancreatectomy for pancreatic head cancer. 14th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists (and Oncologists)., 2004/9, Zurich,, Switzerland..
- 31) Nakao A , et al. Total pancreatectomy with segmental duodenectomy for malignant glucagonoma of the whole pancreas. 4th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists (and Oncologists). 2004/9, Zurich,, Switzerland.
- 32) Nakao A. Vascular resection in pancreatic cancer. National Conference of the Bulgarian Surgical Society. 2004/10, Varna, Bulgaria.
- 33) Nakao A. Oncological Problems in Pancreatic Cancer. Varna, National Conference of the Bulgarian Surgical Society. 2004/10, Varna, Bulgaria.
- 34) Nakao A. Isolated Pancreatoduodenectomy for Pancreatic Head Cancer. National Conference of the Bulgarian Surgical Society, 2004/10, Varna, Bulgaria.
- 35) Nakao A. Pancreatic Head Resection with Segmental Duodenectomy for Benign or Low grade Malignancy

- Tumors of the Pancreas. National Conference of the Bulgarian Surgical Society. 2004/10, Varna, Bulgaria.
- 36) Kanazumi N, Nakao A, et al. National Conference of the Bulgarian Surgical Society. Perineural invasion in pancreatic cancer: 22years of experience with 237 cases, 2004/10, Varna, Bulgaria.
- 37) Nakao A, et al. Clinical Significance of Portal Vein Resection in Pancreatic Cancer Surgery. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery., 2004/12, 横浜.
- 38) Nakao A, et al. Parenchyma Preserving Pancreatectomy, Pancreatic Head Resection and Total Pancreatotomy with Segmental Duodenectomy for Benign or Low Grade Malignancy Tumor of the Pancreas. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery., 2004/12, 横浜.
- 39) Takeda S, Nakao A, et al. The Indications for Adjuvant Chemotherapy in Pancreatic Cancer, 5 Fluorouracil vs Gemcitabine. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery. 2004/12, 横浜.
- 40) Kaneko T, Nakao A. Most Effective Procedure for Pancreaticojejunostomy. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery. 2004/12, 横浜.
- 41) Ishikawa T, Nakao A, et al. Surgical Strategy for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery. Surgical Strategy for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas., 2004/12, 横浜.
- 42) Nakao A. New development in pancreatic surgery: Surgery in extremes. 12th International Postgraduate Course., 2004/12, Athens, Greece.
- 43) Nakao A. Aggressive approach for advanced pancreatic cancer. 12th International Postgraduate Course, 2004/12, Athens, Greece.
- 44) Nakao A. 12th International Postgraduate Course. Oncological problems in pancreatic cancer, 2004/12, Athens, Greece.
- 45) Nakamori S., Monden M, et al. Activation of peroxisome proliferator activated gamma/retinoid X alpha pathway inhibit pancreatic cancer cell growth. 第11回国際膵臓学会 第35回日本膵臓学会大会 合同会議, 2004/7, 仙台市.
- 46) Nakamori S., Monden M, et al. Phase I study of gemcitabine and UFT combination chemotherapy for unresectable/recurrent pancreatic cancer. 第11回国際膵臓学会 第35回日本膵臓学会大会 合同会議, 2004/7, 仙台市.
- 47) Nakamori S, Monden M. et al. Neoadjuvant chemoradiation therapy with gemditabine and accelerated hyperfraxtionaed radiation for potentially resectable pancreatic cancer: A dosefinding study. 40th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology 2004/6 (New Orleans, LA U.S.A.)
- 48) Nakamori S., Monden M, et al. Influence of COX-2 inhibitor on pancreatic cancer invasion and metastasis. 第15回日本消化器癌発生学会総会 第13回国際消化器癌発生会議, 2004/8, 札幌市.

- 49) Miyamoto A., Monden M, et al.
DOSE-ESCALATION STUDY WITH GEMCITABINE AND ACCELERATED HYPERFRACTIONATED RADIATION FOR POTENTIALLY RESECTABLE PANCREATIC CANCER. Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society, 2004/7, Sendai.
- 50) Miyamoto A., Monden M, et al.
Gemcitabine and Accelerated Hyperfractionated Radiation for Potentially Resectable Pancreatic Cancer. The 4th International Symposium on Cancer Research and Therapy . The 4th International Symposium on Cancer Research and Therapy, 2004/11, Tokyo.
- 51) Nakahira S., Monden M, et al.
Schedule-dependent antitumor effects of gemcitabine and s-1, a novel oral derivative of 5-fluorouracil, in pancreatic cancer cells. The 21th Congress of Pan-Pacific surgical Association Japan Chapter. 2004/11, Cairns, Australia.
- 52) Nakamori S., Monden M, et al.
Phase I study of gemcitabine and accelerated hyperfractionated radiation for potentially resectable pancreatic cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery. 2004/12, Yokohama, Japan.
- 53) Sakon M., Monden M, et al.
Pulmonary thromboembolism in Japanese surgical patients. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery 2004/12.(Yokohama, Japan)
- 54) Sugitani A, Tanaka M, et al. The experience of 17 cases of hepatectomy and pancreatoduodenectomy (HPD), and hepatectomy, ligamentectomy pancreatoduodenectomy(HLPD).6th World Congress of the IHPBA, Washington DC, 2004/6, Washington DC.
- 55) Ogura Y, Tanaka M, et al. The mixture of gemcitabine and fibrin glue is effective to inhibit the growth of orthotopically implanted pancreatic cancer in nude mice. 第 11 回国際膵臓学会・第 35 回日本膵臓学会大会合同会議, 2004/7, 仙台.
- 56) Murakami M, Tanaka M, et al. Suppression of Metastasis of Human Pancreatic Cancer to the Liver by Transportal Injection of Recombinant Adenoviral NK4 in Nude Mice. The 7th International Conference of Anticancer Research, Corfu, 2004/10, Corfu.
- 57) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Radiation to stromal fibroblasts increases invasiveness of pancreatic cancer cells through tumor-stromal interactions. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004/12, Yokohama.
- 58) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Quantitative assessment of telomerase activity has more potential for diagnosis of pancreatic cancer using pancreatic juice than that of H-tert mRNA. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004/12, Yokohama.
- 59) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Quantitative assessments of MUCs Family and S100 family with real time

PCR are useful for diagnosis of pancreatic cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004/12, Yokohama.

- 60) Ohuchida K, Tanaka M, et al. A highly-sensitive and quantitative telomerase activity assay of pancreatic juice is useful for diagnosis of pancreatic cancer: analysis of 100 samples of pancreatic juice from consecutive patients. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004/12, Yokohama.
- 61) Ueno H, et al. Phase I study of gemcitabine and S-1 combination in patients with advanced pancreatic cancer. 40th ASCO, 2004/6, New Orleans.
- 62) Morizane C., Ueno H, et al. Phase II trial of chemoradiotherapy using weekly gemcitabine (GEM) in patients (pts) with locally advanced pancreatic cancer (PC). Final results. 40th ASCO, 2004/6, New Orleans.
- 63) Ueno H, et al. Gemcitabine combined with S-1 in advanced pancreatic cancer: a phase I study. Join Meeting of the 11th Meeting of the international Association of Pnacreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society, 2004/7, Sendai.
- 64) Morizane C., Ueno H, et al. Chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma in elderly patients. Join Meeting of the 11th Meeting of the international Association of Pnacreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society, 2004/7, Sendai.
- 65) Morizane C., Ueno H, et al. Construction and validation of a practical

prognostic index for patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma. 29th ESMO Congress, 2004/10, Vienna, Austria.

国内学会

- 1) 小菅智男. 膵空腸吻合のノウハウ (Postgraduate Course). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 2) 佐野力, 小菅智男, 他. 膵頭十二指腸切除における膵管空腸粘膜吻合術とその短期成績. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004/7, 鹿児島.
- 3) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 浸潤性膵管癌5年生存例の臨床像. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004/7, 鹿児島.
- 4) 小菅智男, 他. 切除可能膵癌に対する術中照射を利用した神経叢温存術式の再評価. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004/7, 鹿児島.
- 5) 江川新一, 松野正紀, 他. 慢性膵炎に対する Frey 手術の適応と予後. 第90回日本消化器病学会, 2004/4, 仙台.
- 6) 大村範幸, 松野正紀, 他. ファイバーを改変した制限増殖型アデノウィルスを用いた遺伝子治療. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 7) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌発生・進展における18番染色体異常の役割. (シンポジウム). 第90回日本消化器病学会総会, 2004/4, 仙台.
- 8) 大石英和, 松野正紀, 他. 膵癌肝転移の術前診断におけるCTAPおよびSPIO-MRIの有用性. (口演). 第90回日本消化器病学会総会, 2004/4, 仙台.
- 9) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵頭部癌に対する標準的外科集学的治療. (ビデ

- オシンポジウム) . 第 59 回 日本消化器外科学会定期学術集会, 2004/7, 鹿児島.
- 10) 阿部 永, 松野正紀, 他. 制限増殖型アデノウイルスによる膵臓がんの微小転移診断と治療の可能性. (口演). 第 59 回 日本消化器外科学会定期学術集会, 2004/7, 鹿児島.
 - 11) 大村範幸, 松野正紀, 他. IPMN 合併通常型膵管癌の 1 例. 第 59 回 日本消化器外科学会定期学術集会, 2004/7, 鹿児島.
 - 12) 石田晶玄, 松野正紀, 他. 小膵癌 12 例の術後成績からみた治療方針の検討. (パネルディスカッション). 第 59 回 日本消化器外科学会定期学術集会, 2004/7, 鹿児島.
 - 13) 江川新一, 松野正紀, 他. 慢性膵炎治療に対する Frey 手術の長期成績 . 第 16 回肝胆膵外科学会 (パネルディスカッション), 2004/5, 大阪.
 - 14) 江川新一, 松野正紀, 他. 遠隔転移を有する膵癌に対する樹状細胞腫瘍内投与の第 1 相試験 . 第 25 回癌免疫外科・癌局所療法研究会ジョイントミーティング (シンポジウム), 2004/5, 京都.
 - 15) 江川新一, 松野正紀, 他. 放射線化学療法による局所進行膵癌の down staging. 第 59 回日本消化器外科学会総会 (口演), 2004/7, 鹿児島.
 - 16) 大石 英和, 松野正紀, 他. 外傷性膵損傷に対し Letton-Wilson 手術を施行した 2 例 . 第 147 回東北外科集談会 (口演), 2004/6, 郡山.
 - 17) 石田晶玄, 松野正紀, 他. 膵内分泌癌の 1 例. 第 147 回東北外科集談会 (口演), 2004/6, 郡山.
 - 18) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌発生における 18 番染色体異常の役割. 第 63 回 日本癌学会総会, 2004/9, 福岡.
 - 19) 山中澄隆, 松野正紀, 他. 染色体移入と cDNA microarray を用いた第 12 番染色体上の癌抑制遺伝子の機能検索. 第 63 回 日本癌学会総会, 2004/9, 福岡.
 - 20) 古川 徹, 松野正紀, 他. 浸潤性膵管癌の前駆病変としての膵上皮内腫瘍性病変(PanIN)の分子病理学的特徴. (シンポジウム). 第 63 回 日本癌学会総会, 2004/9, 福岡.
 - 21) 松野正紀. 予後からみた膵癌の治療戦略. 第 9 回 消化器癌フォーラム, 2004/11, 大阪.
 - 22) 江川新一, 松野正紀, 他. 肝転移を有する膵癌に対する樹状細胞を用いた放射線免疫化学療法第 1 相試験. 第 63 回日本癌学会 (ポスター), 2004/10, 福岡.
 - 23) 松野正紀. 予後からみた消化器癌治療戦略 —膵癌—. 第 9 回消化器癌フォーラム (口演), 2004/11, 大阪.
 - 24) 羽鳥 隆, 他. 神経浸潤は膵癌の発症と進展とどのように関わっているか. 第 90 回日本消化器病学会総会. 2004/4, 仙台.
 - 25) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 膵管内乳頭粘液性腺癌由来の浸潤癌と膵漿液性嚢胞腺腫が併存した 1 例. 第 90 回日本消化器病学会総会. 2004/4, 仙台.
 - 26) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 著明な膵外発育を呈した膵尾部腺扁平上皮癌の 1 例. 第 90 回日本消化器病学会総会. 2004/4, 仙台.
 - 27) 羽鳥 隆, 他. どのような局所高度進行(Stage IV)膵癌をどう切除すべきか?. 第 104 回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
 - 28) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 小膵癌に対する診断と手術成績の検討. 第 59 回

- 日本消化器外科学会定期学術総会.
2004/7, 鹿児島.
- 29) 林 和彦, 羽鳥 隆, 他. 膵癌に対する TS-1 を用いた化学療法とその感受性規定遺伝子の検討. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 2004/7, 鹿児島.
- 30) 羽鳥 隆, 他. 膵頭部癌に対する外科切除と補助療法の成績. 第 29 回日本外科系連合学会学術集会, 2004/7, 東京.
- 31) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵腸吻合における No-stent 法. 第 29 回日本外科系連合学会学術集会. 2004/7, 東京.
- 32) 羽鳥 隆, 他. T4 局所進行癌に対する外科切除のあり方. 第 66 回日本臨床外科学会総会. 2004/10, 盛岡.
- 33) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵腺扁平上皮癌自験 18 例の検討. 第 66 回日本臨床外科学会総会, 2004/10, 盛岡.
- 34) 羽鳥 隆, 他. IPMN 非浸潤癌に対する縮小膵切除の工夫. 第 42 回日本癌治療学会総会. 2004/10, 京都.
- 35) 小寺由人, 羽鳥 隆, 他. S-1 と樹状細胞ワクチン, 活性化リンパ球治療併用した免疫細胞化学療法の 2 経験例. 第 42 回日本癌治療学会総会. 2004/10, 京都.
- 36) 中尾昭公. 卒後セミナー癌治療ガイドライン 5 「膵癌」. 第 104 回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 37) 阪井 満, 中尾昭公, 他. 膵癌における CDH13 遺伝子の異常メチル化の検討. 第 104 回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 38) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. TS・DPD からみた進行膵癌術後補助化学療法の適応. 第 104 回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 39) 森 俊明, 中尾昭公, 他. 膵頭十二指腸第 II 部切除術後の胃排出能, 胃運動に関する検討. 第 104 回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 40) 石川忠雄, 中尾昭公, 他. 膵管内乳頭腫瘍(IPMT)に対する機能温存手術について. 日本肝胆膵外科連合会議, 2004/5, 大阪.
- 41) 加藤公一, 中尾昭公, 他. 術後 7 年半後に腹膜偽粘液腫の状態で見逃された膵管内乳頭腺癌の 1 例. 第 22 回愛知臨床外科学会, 2004/7.
- 42) 野本周嗣, 中尾昭公, 他. 膵癌に対する Isolated Pancreatectomy. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 2004/7, 鹿児島.
- 43) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 膵癌に対する門脈合併切除の手技と成績. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004/7, 鹿児島.
- 44) 井上総一郎, 中尾昭公, 他. 現時点における進行・再発膵癌の化学療法のガイドラインとその問題点. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 2004/7, 鹿児島.
- 45) 石川忠雄, 中尾昭公, 他. 膵管内乳頭腫瘍(IPMT)の臨床病理学的検討とその治療方針. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 2004/7, 鹿児島.
- 46) 出口智宙, 中尾昭公, 他. 血管合併切除が必要であった膵 Solid-pseudopapillary tumor の一例. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 2004/7, 鹿児島.
- 47) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会. 局所進行膵頭部癌に対する手術適応. 2004/7, 鹿児島.
- 48) 加藤公一, 中尾昭公, 他. リンパ節転移を認めた TS1 膵癌の 1 例. 第 29 回肝胆膵治療研究会. 2004/8, 名古屋.

- 49) 加藤公一, 中尾昭公, 他. 膵頭部癌におけるリンパ節転移状況の検討. 第36回癌とリンパ節研究会. 2004/10, 京都.
- 50) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. T4 進行膵頭部癌に対する手術適応と術後補助化学療法. 第66回日本臨床外科学会総会. 2004/10, 盛岡.
- 51) 阪井 満, 中尾昭公, 他. 膵併存癌 (duct-acinar cell carcinoma) の1切除例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004/10, 盛岡.
- 52) 廣田政志, 中尾昭公, 他. 膵 IPMT 類似の粘液産生胆管癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会. 2004/10, 盛岡.
- 53) 吳 成浩, 中尾昭公, 他. 膵頭部癌における Double duct sign と門脈浸潤. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004/10, 盛岡.
- 54) 杉本博行, 中尾昭公, 他. 膵体部癌による左側門亢に合併した異所性左胃静脈灌流の1例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004/10, 福岡.
- 55) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 膵頭部癌に対する non-touch isolation surgery. 第42回日本癌治療学会総会. 2004/10, 京都.
- 56) 中尾昭公. 膵癌治療の現況と展望. 第23回愛知臨床外科学会. 2005/2, 名古屋.
- 57) 上和広, 土井隆一郎. サバイビンプロモーターを利用した制限増殖型 HSV-1 による膵癌治療. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 58) 小泉将之, 土井隆一郎. 膵癌症例における PDX-1 の発現と臨床病理学的因子との関連および膵癌細胞株における強制発現による効果の検討. 第104回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 59) 伊東大輔, 土井隆一郎. PD-14-7 mTOR・p70S6K 情報伝達系に着目した膵管癌治療の可能性. 第104回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 60) 森友彦, 土井隆一郎. 膵癌細胞における Akt 活性による TRAIL 感受性制御について. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 61) 藤本康二, 土井隆一郎. 当科における進行・再発膵癌に対する治療戦略. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 62) 土井隆一郎. 局所進行膵癌に対する外科治療の課題. 第104回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 63) 古山賢一郎, 土井隆一郎. 膵頭部浸潤性膵管癌におけるリンパ節転移経路に関する検討. 第104回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 64) 河本泉, 土井隆一郎. 肝転移を来たした膵消化管内分泌腫瘍の治療. 第104回日本外科学会定期学術集会. 2004/4, 大阪.
- 65) 土井隆一郎. (パネルディスカッション) 膵癌細胞の運動能制御をめざした転移抑制分子の開発. 第90回日本消化器病学会総会. 2004/4, 仙台.
- 66) 上和広, 土井隆一郎. survivin promoter を組込んだ制限増殖型 HSV-1 ベクターによる膵癌治療の開発. 第90回日本消化器病学会総会, 2004/4, 仙台.
- 67) 上和広, 土井隆一郎. Survivin promoter を組み込んだ制限増殖型単純ヘルペスベクターによる難治性癌治療. 肝胆膵外科関連会議 2004. 2004/5, 大阪.
- 68) 土井隆一郎. 膵癌手術症例における予後規定因子. 肝胆膵外科関連会議 2004. 2004/5, 大阪.
- 69) 小泉将之, 土井隆一郎. 肝細胞の Pdx-1 遺伝子導入による膵内分泌細胞

- への分化転換. 肝胆膵外科関連会議
2004. 2004/5, 大阪.
- 70) 長山聡, 土井隆一郎. 家族性大腸腺腫
症患者の十二指腸ポリポースिसに対
する膵温存十二指腸切除術の経験.
第 10 回家族性腫瘍研究会学術集会,
2004/6, 東京.
- 71) 伊東大輔, 土井隆一郎. mTOR を標的
とした膵管癌治療: mTOR 阻害剤,
CCI-779 による治療実験. 第 59 回日
本消化器外科学会. 2004/7, 鹿児島.
- 72) 小泉将之, 土井隆一郎. 温度感受性不
死化膵上皮細胞の膵内分泌細胞への
分化誘導の可能性. 第 59 回日本消化
器外科学会. 2004/7, 鹿児島.
- 73) 土井隆一郎. 膵管内乳頭腫瘍診療の
問題点. 第 59 回日本消化器外科学会,
2004/7, 鹿児島.
- 74) 藤本康二, 土井隆一郎, 他. 局所進行
膵癌に対する少量塩酸ゲムシタビン
同時併用化学放射線療法の有効性.
第 59 回日本消化器外科学会. 2004/7,
鹿児島.
- 75) 川口義弥, 土井隆一郎, 他. 膵腺房細
胞癌の 2 例. 第 59 回日本消化器外科
学会, 2004/7, 鹿児島.
- 76) 土井隆一郎. 膵癌における KiSS-1 受
容体を介する浸潤転移制御の試み.
第 63 回日本癌学会. 2004/9, 福岡.
- 77) 土井隆一郎. 外科の立場からみた I
PMT の診断と治療戦略.
DDW-Japan 2004, 第 46 回日本消化器
病学会大会. 2004/10, 福岡.
- 78) 土井隆一郎. 膵癌に対する膵頭十二
指腸切除術後の PD-I 再建と PD-II 再
建の比較. 第 42 回日本癌治療学会.
2004/10, 京都.
- 79) 稲留直樹, 田中雅夫, 他. 膵癌に対す
る制限増殖型アデノウイルスを併用
した NK4 遺伝子治療の有効性につい
て. 第 104 回日本外科学会定期学術集
会, 2004/4, 大阪.
- 80) 蘇東明, 田中雅夫, 他. 膵癌における
16 番リンパ節のマイクロメタスタシ
スは外科切除決定因子か?. 第 104 回
日本外科学会定期学術集会, 2004/4,
大阪.
- 81) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. Real time
PCR を用いた TRAP assay による定量的
テロメラーゼ活性測定による膵癌
の術前診断. 第 104 回日本外科学会定
期学術集会, 2004/4, 大阪.
- 82) 村上光彦, 田中雅夫, 他. 膵癌肝転移
に対する NK4 遺伝子治療・脾注およ
び腹腔内投与モデルにおける検討.
第 104 回日本外科学会定期学術集会,
2004/4, 大阪.
- 83) 水元一博, 田中雅夫, 他. 超高感度テ
ロメラーゼ活性測定系による膵癌診
断. 第 104 回日本外科学会定期学術集
会, 2004/4, 大阪.
- 84) 川本雅彦, 田中雅夫, 他. 膵頭切除後
の胃運動機能と体重回復の検討-
PpPD と PHRS の比較-. 第 6 回日
本国際消化管運動研究会, 2004/4, 仙
台.
- 85) 竹田虎彦, 田中雅夫, 他. 幽門輪温存
膵頭十二指腸切除術後の膵管径の経
時的推移: MRCP による評価と便中キ
モトリプシン値との対比. 第 16 回日
本肝胆膵外科学会, 2004/5, 大阪.
- 86) 山口幸二, 田中雅夫, 他. TS1 膵癌の診
断と治療の問題点. 第 59 回日本消化
器外科学会定期学術総会, 2004/7, 鹿
児島.
- 87) 真鍋達也, 田中雅夫, 他. 進行膵癌
切除後の局所再発防止のための新し
い治療戦略. 第 59 回日本消化器外科
学会定期学術総会, 2004/7, 鹿児島.
- 88) 小倉康裕, 田中雅夫, 他. 膵癌に対す

- るアデノ NK 4 と Gemcitabine 併用による抗腫瘍効果—同所移植モデルによる検討. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 89) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 早期膵癌の診断と外科治療の問題点. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 90) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. Real time PCR を用いた新規腫瘍マーカー及び reference genes の定量的解析による膵癌の診断マーカーとしての有用性の検討. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 91) 石川奈美, 田中雅夫, 他. ヒト膵癌組織における c-MET mRNA の定量的解析. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 92) 藤井圭, 田中雅夫, 他. 膵癌におけるゲノム不安定性の特徴とその分子背景. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 93) 山田大輔, 田中雅夫, 他. ECA(Electrochemical array)を用いた膵臓癌診断システムの開発. 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004/9, 福岡.
- 94) 山口幸二, 田中雅夫, 他. pTs 1 膵癌の診断. 第 46 回日本消化器病学会大会, 2004/10, 福岡.
- 95) 水元一博, 田中雅夫, 他. 転移性膵癌に対する Gemcitabine と UFT 併用化学療法第 1 相臨床試験. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004/10, 京都.
- 96) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 切除不能膵癌に対する肝膵局所動注および全身化学療法の有用性-1 年以上生存例の検討-. 第 16 回日本肝胆膵外科学会, 2004/5, 大阪.
- 97) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 局所進行膵癌に対する 5-FU 肝動注補助化学療法の意義-治療効果および 5-FU 感受性規定酵素の腫瘍内発現状態の検討-(パネルディスカッション). 第 104 回日本外科学会, 2004/4, 大阪.
- 98) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 同時性肝転移を有する膵癌に対する治療方針. 第 59 回日本消化器外科学会, 2004/7, 鹿児島.
- 99) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 膵癌進展と宿主膵の特異的環境. 第 90 回日本消化器病学会, 2004/4, 仙台.
- 100) 川田康誠, 金光敬一郎, 他. C 型慢性肝炎に合併した肝炎症性偽腫瘍の 1 例 第 41 回九州外科学会
- 101) 中原修, 金光敬一郎, 他. 同時性肝転移保有膵癌に対する切除と術後肝動注化学療法第 34 回九州膵研究会
- 102) 赤星慎一, 金光敬一郎, 他. 転移性肝癌を有する非切除膵癌に対する治療-その生存成績と問題点-. 第 14 回熊本肝癌研究会, 2004/12, 熊本.
- 103) 金光敬一郎, 他. 局所進行膵癌に対する周術期肝動注化学療法の意義. 第 59 回日本消化器外科学会, 2004/7, 鹿児島.
- 104) 草野秀一, 金光敬一郎, 他. 局所動注療法後の膵癌病変の組織像と腫瘍マーカー. 第 104 回日本外科学会, 2004/4, 大阪.
- 105) 金光敬一郎, 他. 膵癌切除例からみた膵癌予後規定因子 (ワークショップ). 第 16 回日本肝胆膵外科学会 (日本肝胆膵外科関連会議 in 大阪), 2004/5, 大阪.
- 106) 森実千種, 上野秀樹, 他. 高齢進行膵がん症例に対する非手術療法の治療成績. 第 46 回日本消化器病学会大会, 2004/10, 福岡市.
- 107) 上野秀樹, 他. 進行膵癌に対する gemcitabine と S-1 の併用療法の臨床第 1 相試験. 第 42 回日本癌治療学